

日 時：平成 29 年 2 月 21 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

場 所：益田市立保健センター3 階大ホール

出席者：

（委 員）石橋会長、高島副会長、山下委員、永見委員、小林委員、吉村委員、  
田屋委員、大庭委員

（事務局）福祉環境部 村上推進監  
子育て支援課 石川課長、原所長、中山参事、石田課長補佐、内田主幹  
石田係長、村上係長、岩井主任  
社会教育課 大畑課長  
学校教育課 澤江課長  
美都総合支所住民福祉課 吉野課長  
匹見総合支所住民福祉課 中島補佐

< 次第 >

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

- (1) 児童館のあり方に係る提言を受けた後の状況について【資料 1】
- (2) 益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について【資料 2】
- (3) 子育て支援センターのあり方にかかる意見集約について【資料 3】
- (4) その他
  - 保育所等の設置状況について【資料 4】
  - 益田市子ども・子育て支援事業計画の中間年における見直しについて
  - 次回の会議開催について

～挨拶～

○石川課長

今年度は児童館および子育て支援センター、それぞれの施設のあり方について部会を設置し協議した。一定の方向性の整理がついたので本日その報告を行う。ご意見をいただきたい。

H27.4 月スタートした子ども・子育て新制度は来年度で 3 年目を迎える。子ども・子育て支援事業計画は 5 ヶ年計画の中間年に当たり、国からも計画見直しの要否の基準および手順が示されている。先送りにしている次世代育成支援計画に掲げた内容の追記を含めて、来年度計画の見直しをする必要がある。

推進監がご挨拶すべきところだが、来週火曜日にスタートする 3 月議会を控え、来年度予算に関する記者発表に出席しているため遅参することをご了承いただきたい。

H29 年度予算については、厳しい財政状況の中ではあるが、今年度と同等の予算確保ができた。事業計画に沿った事業の展開を図りたい。引き続きご協力をいただきたい。

○欠席委員の報告

（森委員）

（積田委員）

（渋谷委員）

○石田課長補佐

議事の進行は、益田市子ども・子育て会議設置規則により会長が議事進行を行う。石橋会長にお願いする。

～議事1【児童館のあり方に係る提言を受けた後の状況について】～

○石橋会長

「児童館のあり方について提言を受けた後の状況について」、村上係長から説明をお願いします。

○村上係長

【資料1により説明】

○石橋会長

児童館のあり方について提言を受けた後の現状について報告を受けましたが、質問はないでしょうか。

特にないようなので、次の議事に移ります。

～議事2【益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について】～

○石橋会長

「益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について（総括）」として、石田係長から説明をお願いします。

○石田係長

【資料2により説明】

○石橋会長

今回示された評価表（案）は多少見やすくなったと思われませんが、13事業と63事業あり、多岐にわたっています。今後、Aの部分（Action）をいかに実行していくかが、大切になってきます。委員の方から何か意見はありませんか。

○大庭委員

資料2の課題及び問題点について、結果のみの記載となり、具体的な改善策までは記載されていない。部会を設置して具体的に意見交換する方法がとれないか。評価する立場として、担当課が「難しい」、「評価しにくい」ということに対して「評価」するのではなく、事業の進捗状況や実施の有無等についての評価をするべきではないか。次世代育成支援計画の評価も同様であったように、会議のあり方について再度考えるべきではないか。

○石橋会長

前回、前々回の流れが分かる内容も必要ではないかと思いますが、スペース的に載せられますか。

○石田係長

記載内容については、再度検討します。

○大庭委員

評価するのが難しいのであれば、どうすれば評価がしやすくなるか考えてほしい。狭い範囲（部会）でそれぞれが検討するような場があればいい。「難しい」、「評価しにくい」等の後ろ向きな表現は避けてほしい。マイナス評価ばかりでなく、プラス評価があってもよいのではないか。

○石川課長

施策体系に基づく主要事業は63事業あり、量的にも多く、範囲がとても広がっています。

この会議だけで評価するのは困難だと考えています。評価の仕方として、昨年度は63事業について、基本目標ごとにまとめて評価したが、範囲が広すぎてわかりづらかったと思う。

平成28年度の評価については、なるべく整理した形で資料を作成したい。また、数値に対しての評価ではなく、文言に対しての評価という点も、評価を難しくしている要因だと思う。

取組をしたことについては記載するので、評価をお願いしたい。

また、数値的に示しているものは、数値と実態が乖離しているものは見直しをするように国からも指示があります。

個別の部会の設置について現在のところ考えていないが、評価の記載内容について、今後検討していきたい。

○山下委員

資料2の課題及び問題点については、評価方法についての課題・問題点に留まっており、本来の意味での課題発見に至っていない。難しいと言いきっているのは残念です。

学生の評価をする際も、「B」は普通だが、「C」をつけるのは勇気があるものです。

評価の中で「C」があるものだけでも拾い上げ、誰か1人でも市民が課題と感じていることがあるのであれば、そこを改善すべきではないでしょうか。

例えば、一時預かり、病後児保育が「C」となっているということは、それらの質を上げていく配慮が必要というご意見だと思います。

放課後児童クラブについても「C」が2つあります。

このように、「評価が難しかったから使わない」というのではなく、意見として汲み上げる点は十分にあると考えます。

次年度の全体の中間評価に向けてどこかに残してほしいと思います。

○石橋会長

「C」評価とは言わば「NG」ということだと思いますので、最重要課題として取り組んでもらいたい。

～議事3【子育て支援センターのあり方にかかる意見集約について】～

○石橋会長

続いて「子育て支援センターのあり方についての意見集約について」、安藤委員より部会の報告をお願いします。

○安藤委員

【資料3により報告】

○石橋会長

官民協働で長い間活動を継続してこられた安藤委員の思いがよく伝わってきました。

なぜこのような提言になったかということがよく理解できました。今後、うまく官民が連携して子育て支援ができればと思います。

○原所長

本日はこの項目についてご協議をいただき感謝します。

子育て支援センターが平成13年にできてから今年で15年目となります。

地域の子育て支援拠点として時代とともにニーズも変化していく中で、今後どうあるべきか、毎回真剣に考えていただきました。

これから委員の皆さんからご意見をいただき、提言書が提出できればと思います。

○山下委員

これまでの振り返り、結論ともにわかりやすく説明していただきました。

特に益田市に1カ所しかないセンターで、平成27年度利用率が69.2%という点は驚きました。単純計算すると、一人54回、週1で利用していることとなります。

0歳児家庭の70%近くが利用している点は実績として評価できます。

行政が支援センターを抱えることの意義として、産後間もない子育て親子、特に親の支援をする見守りの場所としての役割を担っています。

福祉、保育施設との連携やカンファレンスの仕組みなど、行政が連携体制をしっかりと持つべきです。

また、住んでいるところの身近で気軽に立ち寄り利用できる施設として、公民館等にサテライト機能を持たせることも必要です。

行政の手によって隅々まで行き渡るように配慮が必要ですので、ご検討いただきたい。

○永見委員

確認だが、提言（案）が「提言」となるのは、今後どのような過程を経ることになるのでしょうか。加筆されることがあるのでしょうか。

○石橋委員

もしこの会議においてご意見があれば加筆されますが、なければこのままで「提言」として、明後日、市長に提出することになります。

○田屋委員

支援センターが1カ所のみなのは、県内では益田市だけとあるが、他県の意見は反映されているのでしょうか。

民間が運営する場合の成功例・失敗例、また、利用されていない方がなぜ利用されないのか、そういった意見を集約しているのでしょうか。

○石橋会長

利用者側の意見、官民それぞれのメリット・デメリット等を、今後資料を通じて教えていただきたい。

○安藤委員

了解しました。

○大庭委員

利用者数について、地域別に把握されているのでしょうか。例えば、真砂地区で利用者が少ないようであれば啓発していきたい。

限られた人だけの利用ではいかがかと思います。

○原所長

子育て支援センター利用者には、親子の氏名・地区、同伴者等を記載してもらっていますが、益田・吉田・高津・安田・東部・西部・美都・匹見・市外・里帰りという大枠でのくくりになっているため、詳細な地区まではわかりません。

○小林委員

相談内容について、平成24年と現在とで変わったなどの傾向が見られるのでしょうか。

○原所長

離乳食に関する相談が一番多い傾向となっています。

○永見委員

以前、第1回目の子育て支援センターあり方検討部会が出された資料によると、食事、生活習慣、発達、保育園、病気、母乳、母の問題等の内容となっています。

地区別の利用者数についても出ています。

○安藤委員

ファミリーサポートセンターに関するデータもあります。

また、支援センタースタッフが各地区で開催する子育てサロンに出向くこともあります。

○内田主幹

入所の低年齢化等の理由で、開催しても来所者数が減ってきているため、以前に比べ地域に出向く機会は減っています。

子育てサロンが開催される地区には出向いています。その他、市で行う健診にも出向き、子どもと関わったり、センターの周知も行っています。

○安藤委員

スタッフが地域の親子をよく見ておられるというのが感想です。

来られない方たちをどう支援していくかが、今後の課題になると思います。

○石橋会長

結論として、指定管理者制度の導入はすべきでないということでした。

現状を維持しつつ、さらに拡大を図る必要があり、「行政」でなくてはならないというのが、会の総意だと感じています。

今後提言書を提出しますが、よりよい報告に向くよう、子どものため、親のためになるような支援センターとなってほしいと思います。

○永見委員

直営であることをもっと強く印象付ける必要があります。

参考までに、以前あり方検討会が出された資料によると、松江市9施設中、直営6、出雲市10施設中8、大田市3施設中1、江津市4施設中1、浜田市2施設中1、安来市5施設中2、雲南市5施設中2、益田市直営1となっています。

○石橋会長

1つしかない施設をあえて「民間」に移すのはいかがかとも思います。

意見がなければ、このまま提言書を提出しますがよいでしょうか。

○一同

異議なし。

～議事4【その他】～

○石田係長

【資料4により報告】

○村上係長

【平成29年度放課後児童クラブ入会申込状況により報告】

○高島委員

児童館が今後2年間の指定管理に入っていこうとしています。

児童館のあり方検討が始まって以降、現場の雰囲気にも影響している点があります。

子ども達の中には、家庭環境等から心の支援を含む「支援」を必要とする子どもも多く、その子ども達に現場の雰囲気が伝わっていないかと心配しています。

今後2年間、地域の方と児童館のあり方について意見交換をしていく中で、児童クラブの支援員が「児童館は必要ない」と言ったのではないということを周知してもらいたい。

また、いちご第2クラブについては、新しい施設へ移転の話しが上がっているが、この場所に第1・2の2クラブが入ることを望んでいます。

来年度の入入れについて、トマトクラブでの入入れは106人と、保育園の小学校低学年受け入れ事業のおかげもあり、児童クラブだけに集中せずに済んでいます。

今年度は待機児童が出るかもしれないとのことですが、過去、待機児童は出ていないと記憶しています。

今後は、施設の充実を図っていただきたい。学校の余裕教室を与えていただくのが、一番望ましいが、詰め込みにならないよう配慮してもらいたい。

また、子どもの人数により職員の増減をしなければならない現状があり、支援員の確保が難しくなっています。処遇改善についても配慮をしていただきたい。

○石川課長

放課後児童クラブ全般について、先般県に出向いて協議する中で、県内自治体においてもクラブの運営に苦慮しておられるという話を聞きました。

市の方針としては、学校の余裕教室に入っていくことを望んでいますが、なかなか難しいのが現状ですので、今後検討していきたいと思えます。

クラブでの受入人数については、定員を定めているので定員の範囲内で受入れ、定員を超える場合は、判定基準により決定しています。

その場合は待機児童が出る場合もありますが、平成29年度は、今後の転出入等の動きにもよりますが、現段階では待機児童は発生しておりません。

○高島委員

吉田南どんぐりクラブが法人委託されましたが、現状としてその他のクラブについてはどうでしょうか。

○石川課長

児童クラブの運営は各地区運営員会に委託していますが、昨年10月、初めて社会福祉法人への委託に切り替えました。

来年度は安田さくらクラブの法人委託に向け準備を進めているところです。

全クラブを法人委託することにはなりません、状況に応じて法人委託を視野に検討をしています。

○高島委員

法人委託されたクラブの支援員からは、事務軽減、負担軽減につながったという声を聞いていますので、今後法人委託が進んでいくことを望んでいます。

○石川課長

支援員にとっては、「法人委託して良かった」との評価ということでしょうか。

○高島委員

良かったという評価です。事務軽減や今後おやつの準備が不要となるということで負担が軽減され、子どもへの支援が手厚くなるなど、いい方向に向かっていると感じています。

○吉村委員

支援センターにしても、児童クラブにしても、「人」が重要だと思います。

人の温かさで子ども達が育っていき、地域として子ども達をどう見ていくのか。

これからさらに課題が出てくると思いますが、そこを私達や地域がどう考えていくかが重要となります。

子育て世代包括支援センターにしても、さらにニーズが深まっていますが、益田市に一つしかないからこそ、いろいろなことに目を向けていかなければならないと思います。

○石橋会長

箱もの話が中心になりがちですが、人同士、地域同士のつながりを大切にして、方向性を示していただきたい。箱ものの整備も大事ですが、中身がより大事です。

○石田係長

【子ども・子育て支援事業計画の中間年における見直しについて説明】

数値において計画と実績が10%以上乖離している場合は見直しをすることになっています。

次回の益田市子ども・子育て会議で提起をさせていただきます。

○石田係長

【資料5について説明】

○石川課長

【資料6及び益田子育て応援宣言企業登録制度について説明】

○永見委員

子育て応援宣言企業登録制度は、登録企業にとってメリットはあるのでしょうか。

○石川課長

登録企業にとっては、市のホームページや広報等で周知することにより、市内外へのPRになります。また、従業員にとっても企業への愛着、定着などにつながると考えます。

他市等で実施されている入札の際のポイント加算などはありません。

○永見委員

良い取組だと思うので、市内企業に広がるよう広報やホームページ等でしっかり周知していただきたい。

○石橋会長

次回の予定について、石田係長より説明をお願いします。

○石田係長

次回の開催予定日は、5月末ごろを予定しています。主な内容は、平成28年度の事業評価となります。事前にご案内し、資料を送付しますので、引き続きご協力を願います。

～挨拶～

○村上推進監

本日は、来年度予算にかかる報道発表について、市長に同席したため遅参しました。

益田赤十字病院の整備などのハード整備が一段落したため、今後はソフト事業、人づくりに力を入れていきたいとの話が市長よりありました。

全体予算は前年度比9%減の241億円ですが、子育て支援については予算措置されています。

来年度に向け、子ども・子育て事業計画を柱に、さまざまな事業を進めていきたいと思っておりますので、引き続きご協力ご支援を願います。